



発行所 香川県小豆農業改良普及センター 〒761-4301 小豆郡小豆島町池田2519-2 TEL:0879-75-0145 FAX:0879-75-2477
URL <http://www.pref.kagawa.lg.jp/shozu/nokai> E-mail shozunokai@pref.kagawa.lg.jp

シリーズ

小豆島の
多様な担い手

高品質な輪ギクづくりを目指して

～小豆島町 藤本 光司さん～



小豆島町池田地区の藤本光司さん(31歳)は、伝統あるキク産地でキク栽培を開始した就農2年目の若手農業者です。

高校卒業後は、島内の印刷業者で10年勤めていましたが、以前からいつかは花を作りたいと思っていたことと、近所のキク栽培農家から就農するなら早い方がいいと勧められたことから就農を決意し、平成29年にJA香川県の農業インターン制度に応募し、島内の先進農家で1年間研修した後、就農しました。

光司さんは、就農時にキク栽培をしているお父さんからネットハウスの一部を引き継ぎ、補助事業を活用し、軒の低いアングルハウスを軒の高いビニールハウスに建て替えるとともに、年2回出荷できるよう温度と日照時間を調整するためのカーテンや品質を上げるための換気扇などを取り付けました。昨年は年1作の出荷でしたが、本年はお盆にキクを出荷するとともに(写真)、このあと年末の出荷を目指して栽培しています。

キク栽培を始めて1年半になりますが、「キクづくりは、はじめてのことばかりで難しい。特に生育初期の管理技術を高めたい。品質をあげることが一番の課題。」と率直に答えてくれました。

また、今後の抱負を聞くと、「小豆島は赤・黄色などの色物輪ギク産地で、市場からも期待されている。その期待を裏切らないよう、品質のよい色物輪ギクを増やしていきたい。」と語ってくれました。キク産地の若い後継者として産地を元気づける担い手となってくれることを期待しています。

GAP(農業生産工程管理)導入のススメ

～取り組み手順と認証取得の流れ～

GAPは農業経営に必要なツールです

農業を行う上で、「作物を上手に栽培する」、「多くの利益を上げる」ことは誰もが目標とすることだと思います。一方、地域の環境を守りながら、今日よりも明日に向けてより良い農業経営に努めることは、目に見えにくい地道な努力ですが、実は望む目標に到達する上でも避けて通れない過程です。GAP認証の取り組みはその道標となるものです。

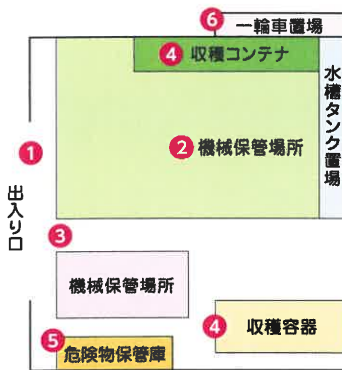
① 自分の経営を把握する

GAPでは、「現在の農業経営について、正確に把握すること」がスタートとなります。農園名・住所、生産品目、経営方針、そして、生産工程カテゴリー(栽培、収穫、出荷調整の3つのうち、自分の農園で行っている工程)を明確にしておきます。また、現時点の栽培面積、栽培作型・品種、外部委託先(農薬散布の作業委託や出荷作業の委託など)の状況も正確に把握しておきます。

② 経営におけるリスクを認識する

最も大事なポイントが「経営上のリスクを把握、検証すること」です。具体例として、まず、ほ場全ての地図と作業場、倉庫のレイアウトを作成します。その中に、隣接するほ場、民家に農薬が飛散するおそれがある危険箇所、トラクターの進入に危険な箇所など、もれがないように記入します。さらに、栽培や収穫などの各作業を時系列順に分けて工程表を作成し、工程毎に考えられるリスクや対策を記入します。最後に、上記の書類に基づき定期的な「自己点検」により検証を行い、問題点が見つければ、是正の後、修正・加筆を行います。

【例】倉庫の場合



考えられるリスク	程度	対策
① 出入り口から鳥や猫が侵入することによる収穫容器や収穫機械への汚染	高	出入りの都度扉を閉める
② 水槽タンクから機械への農薬汚染	高	隣り合わせに置かない
③ 管理機、草刈機などの刃によるけがの防止	低	時間に余裕を持ち丁寧に在庫
④ 収穫容器及び収穫コンテナへの埃・昆虫等の付着	低	収穫前に洗浄
⑤ ガソリンの不適切な保管による火災	高	火気厳禁、保管庫に入れる
⑥ 一輪車の落下によるけが	低	設置面の確保、フックで固定

③ GAPを取る(GAP認証取得)

上記の準備が出来たら、「審査機関にGAP認証取得の申込、契約」を行います。GAP認証は取り組みを客観的に保証するもので、国際的に通用するものとして、JGAP(ジェイギャップ)認証などがあります。日本GAP協会(<http://jgap.jp>)が運営し、民間の審査機関が複数あり、収穫時期に合わせて審査員が現地に赴き、基準に適合するか審査を実施します。

審査に当たっては、費用が発生しますが、国や県では認証取得を希望する生産者に対して、審査費用、取得に係る費用を支援する事業を実施しています。



安全のために整理された倉庫内

国際水準のGAP取得は、今後ますます必要になっていくものと思われます。普及センター、JAでは、指導員資格を持つ職員が多数おり、支援体制を整えていますので、ぜひ、御相談ください。

5年、10年後の集落は？

～皆様で今後の集落について考えませんか～

小豆島での水田農業の中心は稲作であり、水稲作付により農地の機能が維持されています。そして、多くの農業者の方々は65歳以上が中心です。

農業者の方々からは、「まだまだコンバインやトラクターなどの農業機械は使える」、「あと何年かは農業を続けられる」などの意見を伺いますが、今後、農業機械の更新などができなくなった場合、地域の農地は誰が守るのでしょうか。

もし、農地が管理できず耕作放棄地となった場合、周辺の作物への影響やイノシシなどのすみかとなることも考えられ、農業の維持以外に生活環境への影響も心配されます。

このため、今から今後の地域の農業について、集落で考えてみませんか。

● 集落営農の必要性

「農業機械の共同利用」や「農作業の共同化」により生産コストの低減や作業の効率化を図るほか、集落全体で農地や生活環境を守っていくことが必要です。

【地域の農地や生活環境の維持に向けて】

「農地を貸したら農地は戻ってこない」との間違った認識や、集落で話し合いを行うにも「リーダーがいない」との意見を伺います。

しかし、集落の今後5年、10年先を考え、「安心して生活できる環境」を守っていくことが重要であり、その一つとして「集落営農」が考えられます。



● まずは話し合いを行きましょう！



● 小豆島らしい集落営農

- ・水田の維持発展に向けて水稲を作付けるとともに、オリーブなどの園芸品目を組み込む
- ・水田だけでなく「水田+畑」、あるいは「畑」のみの形態
- ・イノシシ等の鳥獣被害から集落を守るため、集落柵設置等の鳥獣被害対策を中心とした取組み

～集落の皆様での話し合いにより、今後も安心して暮らせる集落づくりを進めましょう～

島内研修で新規就農者と農業士、認定農業者が交流

8月30日、小豆島町室生自治会館において、小豆郡農業士連絡協議会与管内の認定農業者で組織するオリーブネットワークが共催で、島内研修会が開催されました。

研修会では、(株)高尾農園の代表取締役 高尾豊弘氏から、JGAP認証への取組みについて、また、(株)高橋商店の代表取締役 高橋淳氏から、「そら豆醤油」など小豆島の農産物を加工・商品化している取組みについて、事例発表と意見交換が行われました。

研修会終了後は、オリーブ牛や地元の放牧豚の焼き肉等を楽しみながら、経営部門や年齢を超えて農業者相互の交流が図られました。



新たに農業を始める方へ ～認定新規就農者制度について～

就農して安定した経営を行うためには、まず具体的な「就農計画」を作成し目標を明確にすることが大切です。この計画を町へ提出し、「認定新規就農者」の認定を受けると、補助事業や資金などの支援制度を活用することができます。普及センターでは、JAや町と連携して、「就農計画」の達成に向けた支援を行っています。



「認定新規就農者」の申請を考える方へ

- 1 対象者は新たに農業経営を営もうとする18歳以上45歳未満の青年、または特定の知識、技術を有する65歳未満の方、並びにこれらの方が役員の過半を占める法人です。
- 2 「就農計画」の作成については、普及センターか町の農林水産課へ御相談ください。
※就農5年後の経営目標(経営作目、規模、所得目標、労働力等)、施設や機械の導入計画、資金計画などを記載します。
- 3 作成した「就農計画」は、町の農林水産課へ提出し、町の基本構想に照らして適切であり、目標達成が確実と認められる場合に、町の認定を受けることができます。

就農に向けて知識・技術を習得したい方へ【参考情報】

香川県立農業大学校 …… 担い手養成科(2年)または技術研修科(1年又は4ヵ月)で農業の基礎を学びます。

JA香川県 …… インターン制度(1年)を利用し、先進農家のもとで研修しながら担い手を目指します。

「どでカボチャ大会」の“スコッシュ部門”で優勝

(小豆郡生活研究グループ)

9月15日、土庄町のフレトピア広場において「第33回 日本一どでカボチャ大会」が開催され、全国14県から60点の出品がありました。

小豆地区からも22点と多くの生産者やグループ等がエントリーし、工夫を凝らして「どでカボチャ」を栽培・出品することで、地域の活性化が図られています。

その中で、今年は「小豆郡生活研究グループ」が出品したカボチャ(96.4kg)が、「スコッシュ部門」で優勝しました。

